

3 コンテナ苗の規格

岡山県のコンテナ苗規格（山行き苗規格*）は、表-1のとおりです。

山行き苗規格外の苗（山行き苗規格を下回る苗）を現地へ試験的に植栽したケースでは、その後の生育が山行き苗規格のものに比べ、劣る事例（調査区3、調査区4）も岡山県内で確認されています（西山 2019、図-4）。この点からも、コンテナ苗規格は非常に重要なものであることから、これを厳守する必要があります。

なお、都道府県によって、コンテナ苗の規格はそれぞれ異なることから、他府県への苗配布に当たっては、配布区域と合わせ、特に注意が必要です。

表-1 岡山県のコンテナ苗規格

樹種	苗齢 (年)	規格	
		苗長 (cm)	根元径 (mm)
スギ	1~2	35~	4.0~
ヒノキ	1~2	30~	3.5~

※形状比（苗長/根元径）は80以下を目標とする

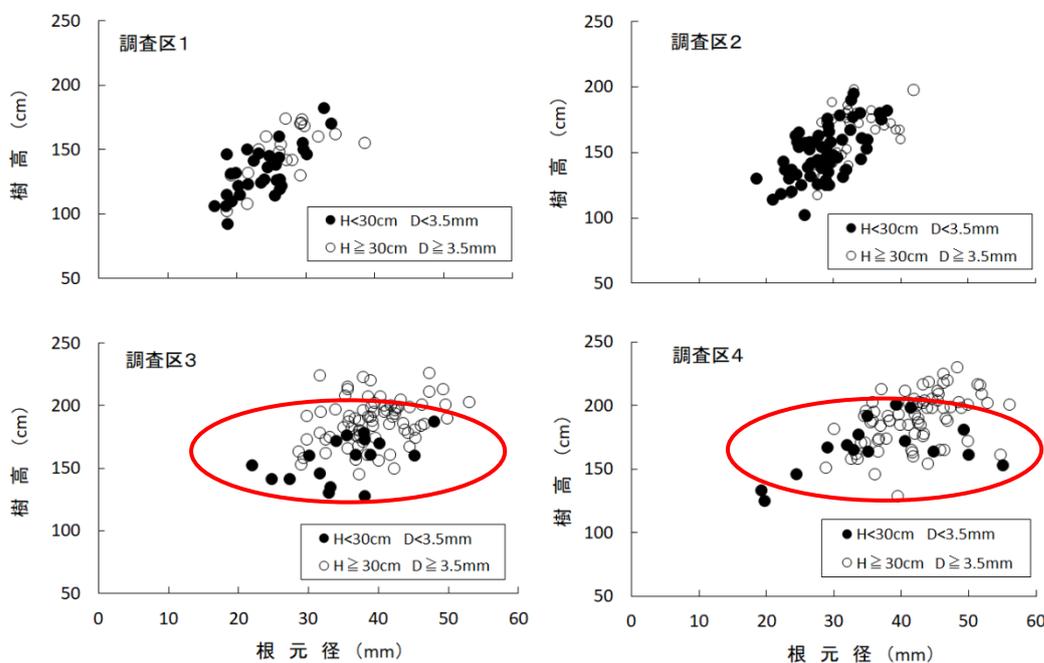


図-4 真庭市(星山)試験区における植栽時のヒノキコンテナ苗サイズが3年経過後の成長に及ぼす影響

注. 西山(2019)より抜粋

根鉢*が崩れず、よく根が伸長していることはもちろん、上記苗規格（苗長、根元径）に適合したもの（図-5）を、最終的には、植栽（山行き苗）に供します。形状比は概ね80以下のものが理想です。

根鉢を下にした状態で実際にコンテナ苗の根元を持った時、根が崩れたり、培地が脱落するもの（図-6）は、苗規格としては不適です。また、硬すぎて育成孔から抜き取れない問題もあります。その際、地際径の太さが根鉢の健全性を示すとする報告があることから（齋藤ら 2020）、苗長以上に、根元径が良質な苗木の条件として非常に重要といえます。



図-5 根が充実したスギコンテナ苗（少花粉）

注. 左側：根が充実した苗（全体） 右側：同苗（根部分）

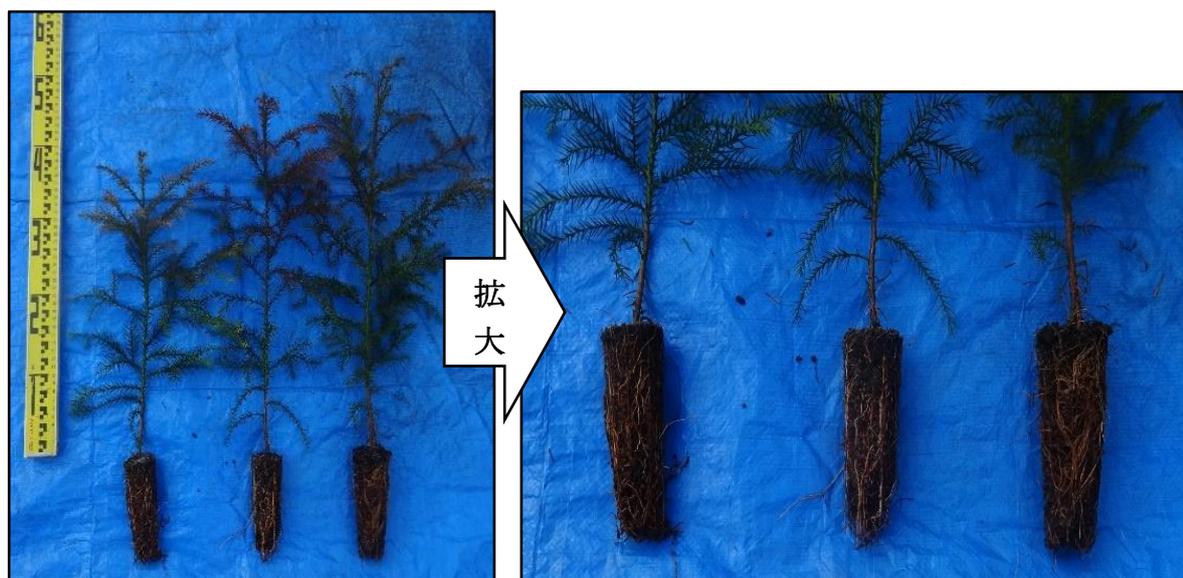


図-6 根が未発達なスギコンテナ苗（少花粉）

注. 左側：根が未発達な苗（全体） 右側：同苗（根部分）